

林業成長産業化地域創出モデル事業の取り組み ～北海道網走西部流域地域～

網走西部流域森林・林業活性化協議会事務局

紋別市役所 産業部 農政林務課 林業振興担当

参事 中村 雅俊



網走西部流域の概要

各流域活性化協議会の構成

林業・林産業関係者

国有林

森林整備水準の向上

林業労働力の確保

林業・林産業の活性化

林業生産性の向上

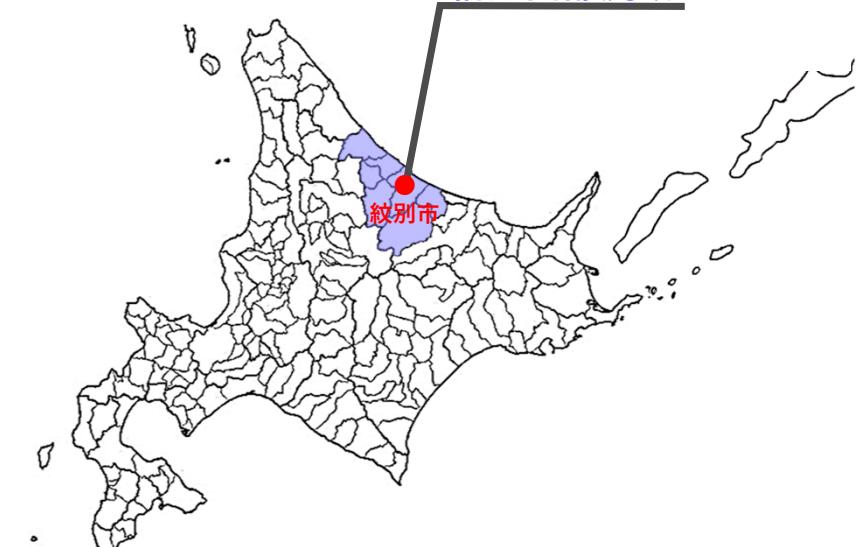
地域材のブランディング

道有林

市町村

学術機関

網走西部流域



網走西部流域は、北海道のオホーツク海側の約中間地点に位置しております。オホーツク総合振興局管内の遠軽町から湧別町を境として西側が網走西部流域となります。

平成5年に林業・林産業の活性化を目的として、各管内の林業・林産業関係者、国有林・道有林、市町村、学術機関を構成員として設立し、「森林整備水準の向上」「林業労働力の確保」「林業生産性の向上」「地域材のブランディング」等に向け取組を進めております。

森林認証制度は流域の取り組みの一つとして平成15年頃から進めています。

～位置～



紋別市の面積：830.70km²

行政区域の8割は森林に囲まれ

山、川、海のある自然豊かなまち

人口約21,000人





氷海展望塔 オホーツクタワー



オホーツク海と流氷

流水の一生

オホーツク海は、地球上で最も赤道近くに位置する、凍る海です。なぜ日本海や太平洋が凍らす。この海域だけ流氷ができるのでしょうか。オホーツク海を覆う流氷の動きや、独特の海の秘密を解説します。

流氷と海水

「流氷」とは「海上を流れ、漂う氷」、海岸で動かない「底氷」と区別して使われる。一般には、動きにかららず海上に浮いた氷を「流氷」と呼ぶ。「海水が凍ってできた氷」は、専門的には「海氷」と呼ぶ。川や湖の氷が溶った「河氷」「湖氷」、雪が氷河となって海上に流れ込む「雪山」と区別される。オホーツク海の氷のほとんどが流氷だ。

アムール川

オホーツク海に広がる流氷

近年、減少しつつあるが、3月中にはオホーツク海の約半分を覆う。その後、減少傾向だし、5月にはすべて氷を消す

厳しい寒気が北西回帰の海上に吹きつける。オホーツク海の流氷のほとんどがこの渦巻で生まれる

北半球の南限

南半球で深緑するのは南極大陸の周りだけだが、北半球では北極海のほか、ベーリング海やオホーツク海も凍る。オホーツク海は最も赤道近くに位置している。

蒙古高原と東北半島に囲まれて、日本海に面する

日本海

凍らない

太平洋の暖かい海水が流れ込んため、夏半分は凍りにくい

冬期は上陸する。春と夏をたどる

氷河

氷河

氷河

氷河

氷河

氷河

氷河

氷河

氷河

流氷と北海道

道内では、境界に入る海面に流氷が初めて見え始める「流氷解氷日」、最初に見えた日を「流氷解日」と呼ぶ。流氷終日前に、遅く予測し誤算をした船が通れる水路もできた段階で「海開け」が宣言される。この間に、まだなにかと二度、二度がある。

日本海
凍らない

日本海や北日本海で流氷と移動が止まる。流氷の多い時は、一組が複数回路で流れ出ることもある

太平洋
凍らない

凍る海の秘密





紋別市オホーツクとっかりセンター



怪我をして保護されたアザラシ





オホーツク紋別空港

羽田 ⇄ 紋別 1時間45分



森林認証取得の経過

紋別地域の認証取得にむけた取組

紋別地域の林業に対する危機的意識が高まる中、平成15年に緑の循環森林認証制度（SGEC）が創設されました。

紋別の林業・林産業において“木材のブランド化”により地域材へ“付加価値”を付けるためにどうすれば良いのか、何度も勉強会等が開催されました。

そして、この地域に合った森林認証制度であるSGECの取得に向け、行動が開始されました。



2003
平成15年



「紋別市林業・林産業に関する懇談会」における勉強会

構成/紋別市、雄武町、興部町、滝上町、西興部村

- 各地で地域ブランドへの取組が活発化⇒林業のブランド化
- 下川町のFSC森林認証取得が話題⇒紋別市で取組検討
- 「緑の循環」認証会議から「出前勉強会」等の開催

2004
平成16年



林業関係者～「認証取得決定」・「取組開始」

- 懇談会構成員が所有する森林でSGEC認証取得
- 「紋別市」、「国有林」、「大企業有林」へ取組要請
- 林業関係者、市民を対象に講演会、勉強会の開催



2005

平成 17 年



2006

平成 18 年

林業界に要請、情報収集そして大企業取得へ

- ・紋別市としての取組が決定
- ・「王子G」、「日本製紙G」が認証を取得
- ・「国有林」、「道有林」、「住友林業」に取得要請

「緑の循環森林認証で地域おこし協議会」設置

構成/紋別市内各界各層～23団体

「網走西部流域森林・林業活性化協議会」で取組

構成/紋別市、雄武町、興部町、滝上町、西興部村、遠軽町、（旧）上湧別町、湧別町

「紋別市有林」、「住友林業」、「オホーツク中央森林組合所有林」で森林認証取得



2007

平成 19 年

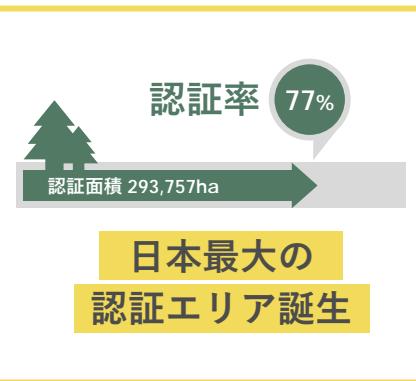
2009

平成 21 年

「国有林」、「道有林」、「滝上町有林」で森林認証取得



しかし、木材需要が高まってきた“カラマツ”は、一般所有者である私有林に多くあり、認証材の安定供給に課題がありました。そこで、森林組合が一般所有者と“長期施業委託計画”を結び、一般民有林の山も認証がされる体制が整えられました。



「オホーツクフォレストネットワーク」（協議会）による森林認証取得

構成/オホーツク中央森林組合、雄武町森林組合、興部町、西興部村、雄武町
※森林組合が事務局となり、個人、会社、団体と長期施業委託契約を結び、事務局から認証会議へ一括申請を行う。

※私有林の取得費用は、市町村と森林組合が負担し、個人所有者の負担を無くした。

「滝上町森林組合グループ」による森林認証取得

構成/滝上町森林組合、林業・木材業者

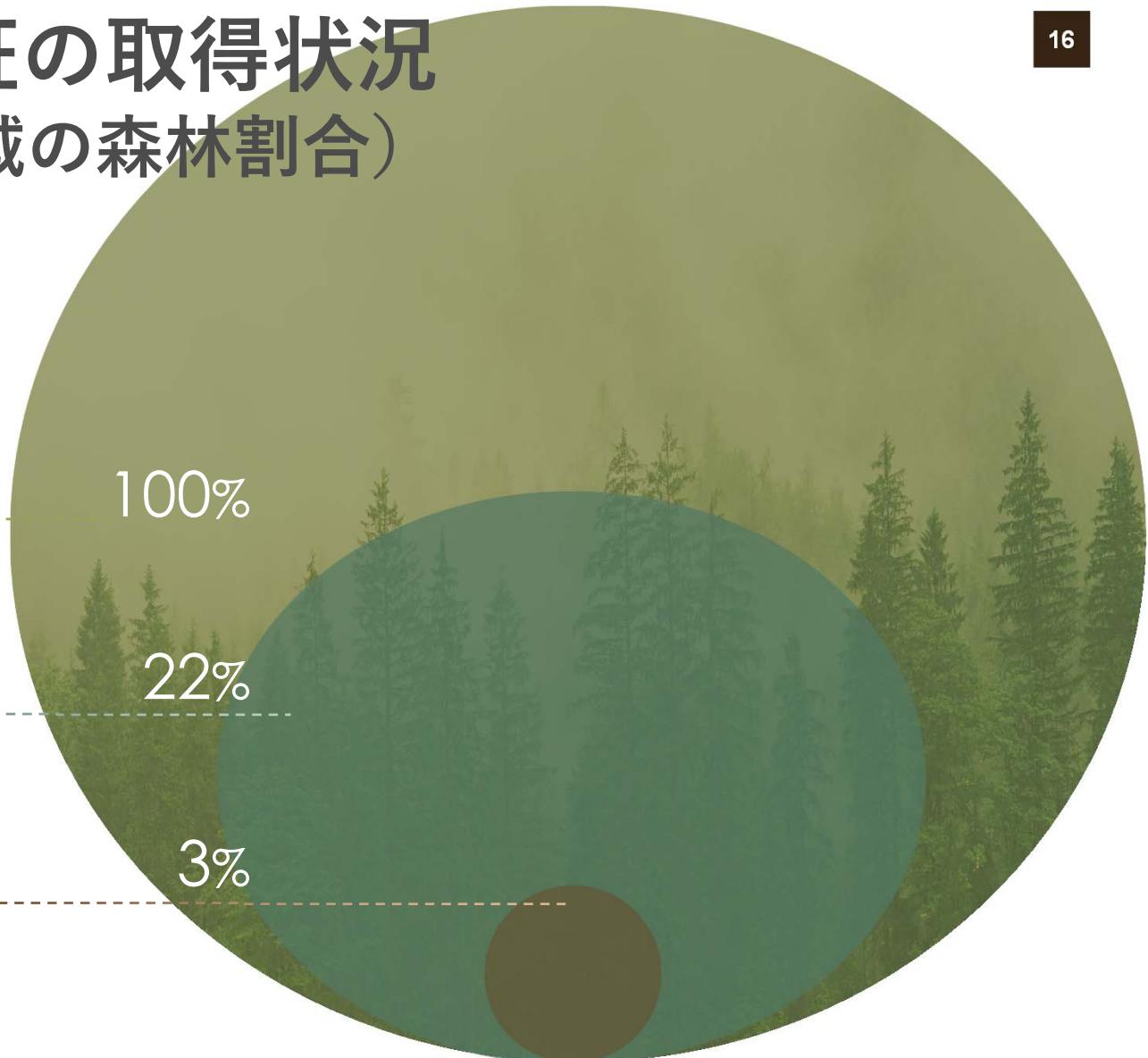
→ NOW
現在

市町村別の取得面積（千ha）

所管の別	森林面積	F S C			S G E C				
		市町村有林	民有林	計	国有林	道有林	市町村有林	民有林	計
斜里町	57.2				50.0			1.6	51.7
清里町	28.8				27.8				27.8
小清水町	14.1				11.4			0.2	11.6
大空町	13.7				3.1				3.1
網走市	16.0				5.3		0.0	1.4	6.7
美幌町	26.9	1.2	1.3	2.5	10.1	4.0		0.4	14.5
津別町	61.4				28.1	24.8	1.4	1.6	55.9
北見市	94.4				60.1	1.9	3.7	1.4	67.1
訓子府町	9.2					6.0	0.8	0.1	7.0
置戸町	44.7				32.0	5.1	2.0	2.3	41.4
佐呂間町	22.8				15.3				15.3
遠軽町	117.2				99.9		3.6	0.7	104.2
湧別町	27.7				6.3			3.7	10.0
紋別市	65.7				25.9		2.5	31.1	59.5
滝上町	68.6				58.5		2.8	6.1	67.4
興部町	25.6					10.3	1.4	10.7	22.3
西興部村	27.5					22.6	1.2	1.8	25.6
雄武町	47.4					33.3	2.7	4.7	40.8
網走東部流域	389.2	1.2	1.3	2.5	243.2	41.9	7.9	9.2	302.2
網走西部流域	379.7				190.6	66.3	14.2	58.7	329.8
合計	768.9	1.2	1.3	2.5	433.8	108.2	22.1	67.9	632.0

オホーツク総合振興局林務課調べ（令和4年3月時点）

東西流域の森林認証の取得状況 (全国に占める東西流域の森林割合)



東西流域の森林認証の取得状況

(全国に占める東西流域の認証林の割合)

日本全国の認証林面積
253 万ha

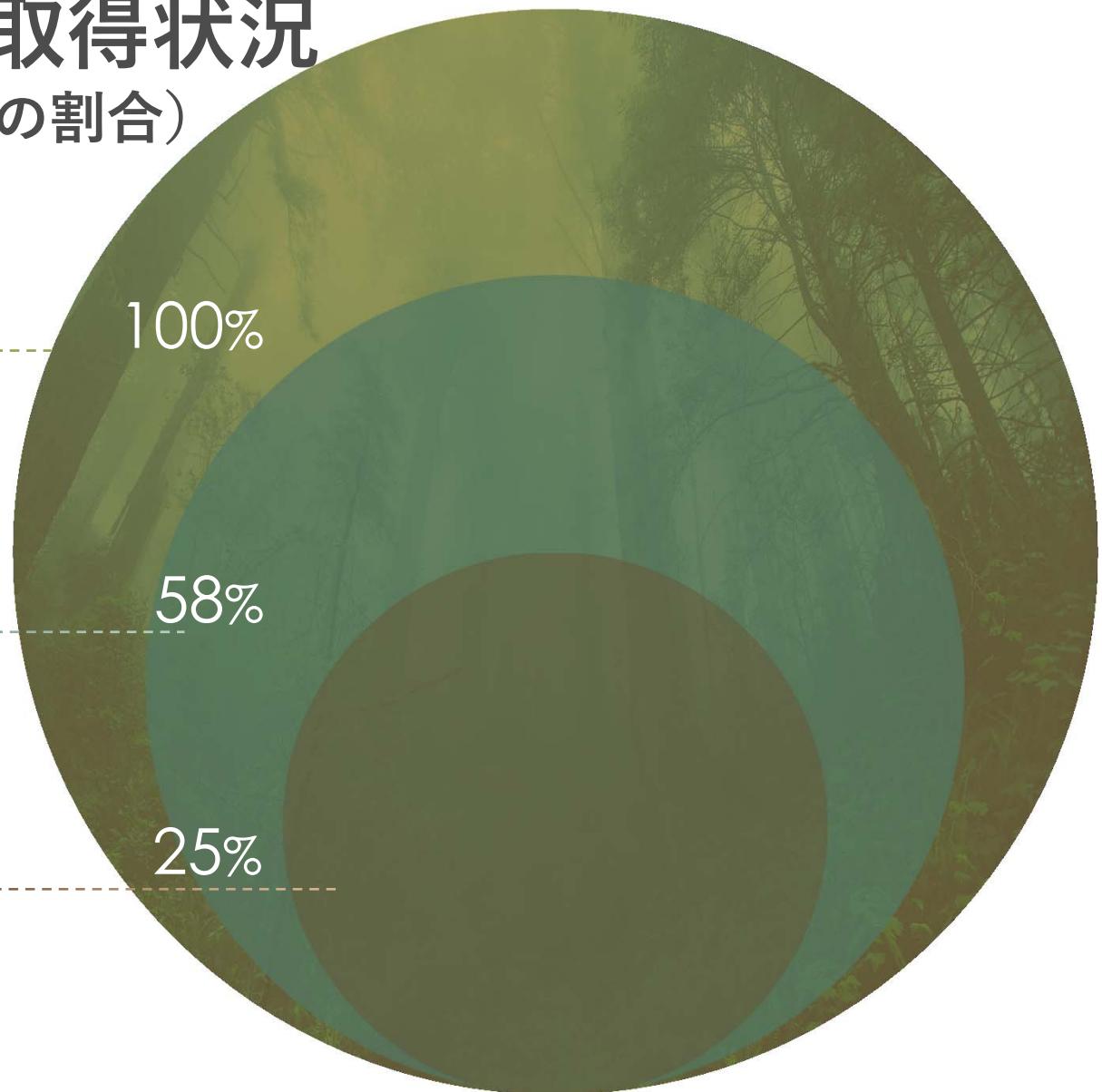
令和2年度森林林業白書より

北海道の認証林面積
145 万ha

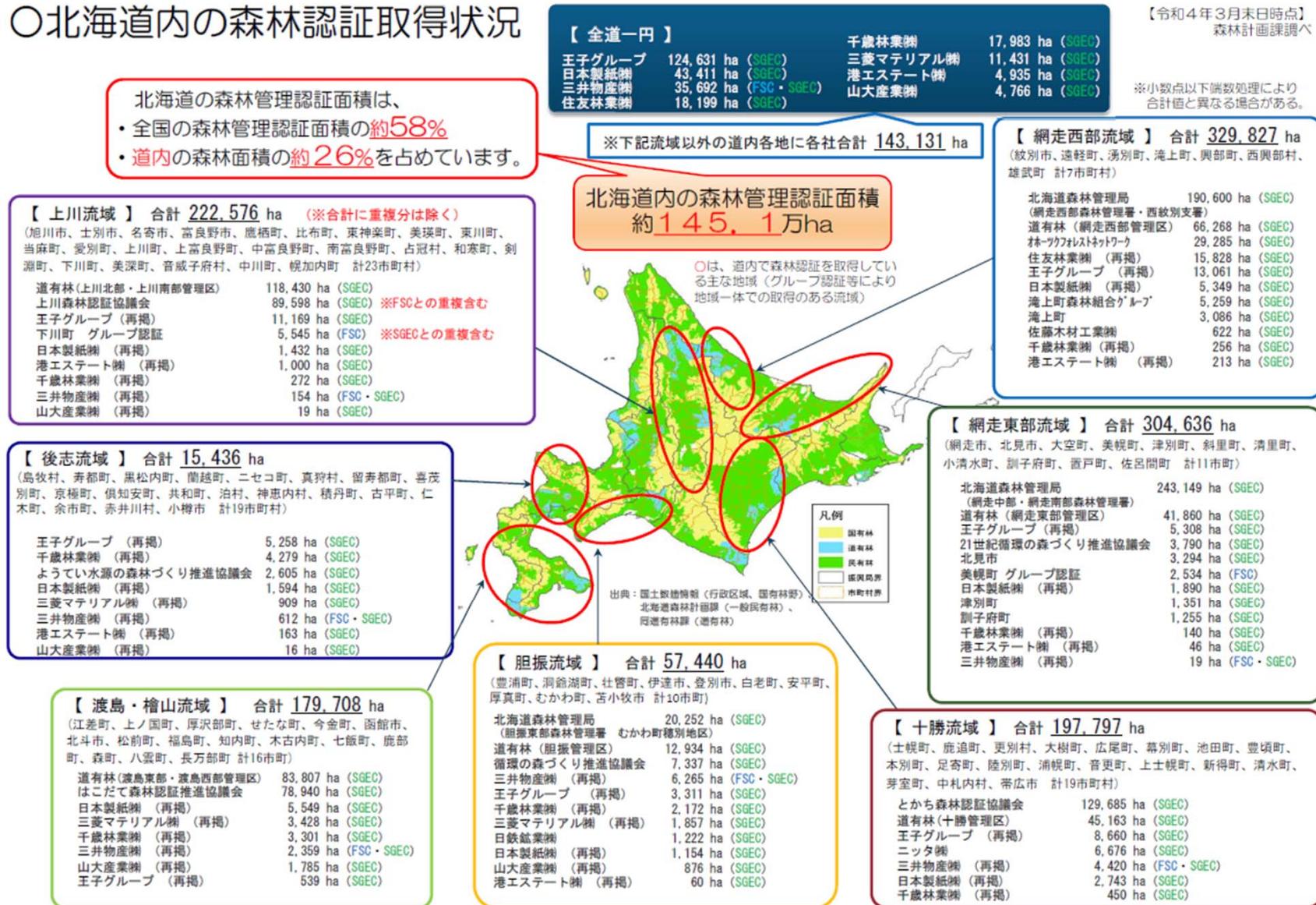
令和2年度北海道森林づくり白書より

網走東西部流域の認証林面積
64 万ha

令和2年度オホーツク総合振興局林務課調べ



○北海道内の森林認証取得状況



※北海道HPより

【令和4年3月末日時点】
森林計画課調べ※小数点以下端数処理により
合計値と異なる場合がある。

森林認証取得 森林認証制度の期待されるメリット

森林所有者

- 認証山林の価格にプレミア
→所得の向上
- 所有森林の確認と所有者として再認識
→森林の管理意識、施業技術の向上、
施業の適正化

木材業界

- 市場シェア獲得へ期待
- 製品の差別化
- 付加価値化
- 流通・加工過程の信頼性の向上
→認証材の優先購入、利用・生産性の向上、
製品のプレミアム化



各企業

- 環境面や社会面のリスクの減少
- 管理者と従業員のモラルや自覚・技術向上
→企業イメージ向上、企業体质強化

森林組合

- 認証取得
→組合員の加入促進
- 長期施業（経営）受委託契約
→経営計画の促進、安定的施業の確保
提案型集約施業の促進・拡大

世界の主な森林認証制度



1993年に創設された「世界統一基準の認証システム」
北米やヨーロッパ等で取得を拡大し2019年12月現在で
82カ国、2億74万ha



1998年に創設された「地域認証の連合体」
ヨーロッパやアメリカ、カナダ、マレーシアなど世界各国
が加盟。
近年はアジアや南米等の国々へ相互認証を拡大し、2019年
6月現在で51カ国、約3億ha



2003年に創設の国際性と従来の森林計画制度を活かして構築された日本独自の制度。
日本の林業実態に見合った独自の制度として、環境保全と
木材生産の両立を目指す。

2016年に
相互
認証



C o C認証取得企業

SGEC-CoC取得状況（R2.3.31現在）

No.	流域	事業体名称	認定番号	認定対象事業
-	北海道	佐藤木材工業グループ(構成員4社)	SGSJP-W047	
1	北海道	-	-	木材生産・販売、製材、チップ生産、製品販売
2	北海道	やしろ林業組合	-	木材加工・販売
3	北海道	(有)伊藤木場	-	製材・木材加工・製品販売
4	北海道	(有)林業(株)	-	木材生産・販売
-	北見圏	SGEC-CoCネットワーク構成員36社	SGSJP-W014	
5	東部	北見第一木材(株)	-	製材、木材加工、木材・製品販売
6	東部	ルベニア木材工業(株)	-	製材、木材加工、木材・製品販売
7	東部	(株)道藤	-	木材生産・販売、土木、造園
8	東部	赤坂木材(株)	-	木材生産・販売
9	東部	北見ラーフ(株)	-	木材生産、製材、木材加工、木材・製品販売
10	東部	庄木木材工業(株)	-	木材生産、木材加工、木材・製品販売
11	東部	留辺蘂木工(株)	-	集成加工、木材加工、木材・製品販売
12	東部	(株)マニニ西木材店	-	製材、木材・製品販売
13	東部	大津木材(株)資源工場	-	木材生産、製材、木材加工、木材・製品販売
14	東部	協同組合ホーツクグッドピア	-	集成加工、木材加工、木材・製品販売
15	東部	協同組合ウツイワスズメ	-	製材、プレカット、木材・製品販売
16	東部	(株)遠藤組	-	木材生産・販売、建設、土木
17	東部	丸太産業(株)	-	木材加工、木材・製品販売
18	東部	(株)横川興林	-	木材生産・販売
19	東部	井上産業(株)	-	木材生産、製材、木材・製品販売、建設、土木
20	東部	協同組合ホーツクグッドテック	-	集成加工、木材加工、木材・製品販売
21	東部	(株)木村産業(株)	-	木材生産、製材、木材・製品販売
22	東部	(有)真野林工	-	製材・生産・販売、シッピング製造・販売
23	東部	加藤木材工業(株)	-	製材、木工、木材・製品販売
24	東部	海上通船(株)	-	木材生産、木材加工、木材・製品販売
25	東部	(株)グリーンタケ(有)	-	木材生産・販売
26	東部	高山建設(株)	-	建設
27	東部	(株)桑原建	-	建設
28	東部	(株)矢口産業	-	木材生産・販売、土木
29	東部	興徳地区森林育成協同組合	-	木材生産・販売
30	東部	(株)ユニークリーンおこっぺ	-	木材生産、木材加工、木材・製品販売
31	東部	千子木フレット(有)北道出張所・稚内事務所	-	木材生産・販売
32	東部	野村木材工業(株)	-	製材、木材加工、木材・製品販売
33	北海道	大原建設(株)	-	建設、土木工事
34	北海道	美木建設(株)	-	総合建設業・土木、建築、機械、その他工事
35	北海道	(株)菊池組	-	建設、土木工事
36	東部	渡戸樹木産業組合	-	木材加工・販売
37	東部	株式会社中村藤木	-	木材加工、木材・製品販売
38	東部	北見地方木材協同組合連合会	-	木材販売業
39	東部	(有)佐藤製油工場	-	木材生産・販売、製材、木材・製品販売
40	東部	相澤木材加工(株)	-	木材加工、木材・製品販売
-	東部	21世紀植樹の森づくり推進協議会(構成員8社)	SGSJP-W035	
41	東部	新生記念林組合	-	木材生産・販売、製材、木材加工、木材製品販売
42	東部	熱海産業(株)	-	木材生産・販売
43	東部	(有)三好産業	-	製材・木材加工、木材製品販売
44	東部	(有)三好木材店	-	木材生産・販売
45	東部	(有)ログアート宮本	-	製材・木材加工、木材製品販売

FSC-CoC取得状況（R1.10.23現在）

No.	流域	事業体名称	認定番号	認定対象事業
1	東部	美幌町森林組合	SGSJK-COC-003523	木材生産、製材
2	東部	協同組合オホーツクグッドピア	SGSJK-COC-003536	集成材
-	東部	美幌、木曽ラブ(構成員7社)	SGS-COC-003552	
3	東部	(有)山手上木工	SGS-COC-003552-C	木材加工
5	東部	(株)宮田建設	SGS-COC-003552-F	建築・土木
6	東部	松下工芸	SGS-COC-003552-G	
7	東部	町島工務店(有)	SGS-COC-003552-H	建築
8	東部	(株)真備工務店	SGS-COC-003552-T	建築
10	東部	おいで家具	SGS-COC-003552-N	
12	東部	(有限会社)山岸工務店	SGS-COC-003552-M	
14	東部	(株)佐藤製作所	SGSJK-COC-010961	製材、プレカット加工
15	西部	漁端紙印刷株式会社 遠軽工場	SGSJK-COC-010963	

出展：網走東部・西部流域活性化協議会Webサイト

C o C 取得企業 93社

- 素材（丸太）生産
- 製材
- 集成材・合板
- プレカット
- 建築・土木
- 家具・クラフト など
- 幅広い業種で取得

これからの森林認証



我が国の森林の循環利用とSDGsとの関係

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

- 森林そのものが様々なSDGsに貢献。さらに森林資源・森林空間の利用を通じ、様々なSDGsに貢献。
- これらの利用は、林業・木材産業を通じ、森林の整備・保全に還元されるという大きな循環につながっている。



基調講演や事例紹介を通じて

- 認証材の有効性を実感
- 認証材の活用検討

注1：アイコンの下の文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。

2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。



(出展：令和元年度林野庁 森林林業白書)

認証材の普及に向けて

3

認証材の普及にむけて

情報発信 > 住民および全国へ



「広報もんべつ」、
「ホームページ」で活動を報告

講演会、シンポジウム開催

- ・森から海の連環を考える（平成20年）
- ・北方圏国際シンポジウム（平成20年～）
- ・SGEC森林認証勉強会（平成20年～）
- ・低コスト施業システムの普及を考える現地検討会（平成21年）
- ・SGEC森林認証セミナーアイホーツク（平成22年）（主催：緑の循環森林認証会議）

認証見本林の設置

紋別市有林内（八十士団地・大山団地）

「認証林」の表示・設置

認証森林の表示板の統一

認証材の普及にむけて

情報発信 > 講演会、シンポジウム開催

森から海の連環を考えるシンポジウム

平成20年（約650名参加）

森の林業・里の農業・海の漁業が揃う紋別市にとって“森から海への連環”は地域活性化に向けた取り組みの出発点であり、「森林認証エリア日本一」を多くの人々と供にお祝いし、全国にアピールするシンポジウムとなりました。



SGEC森林認証セミナーinオホーツク

平成22年（約150名参加）

全国のSGEC取得状況及び流通における課題について意見が出されました。

また、現状はSGEC材に付加価値はまだ付いていないが、今後、十分に付加価値を付けられる可能性についても意見が出されました。



認証材の普及にむけて

情報発信 > 見本林の設置



大山見本林内に設置した遊歩道、市民に親しんでもらう工夫



SGEC認証見本林を設置し、看板を設置し、見学者や住民にアピール
(合計4箇所に設置済み)



八十士に設置した看板
見本林全てに、この看板を設置

認証材の普及にむけて

地産地消の取組

「公共工事」での 認証材優先使用

● 内容

- 市発注の「土木工事」、「建築工事」への認証材使用依頼
- 国営・道営事業への認証材使用要請
(乳牛哺育・育成預託牧場 建設事業)
- 木造公共施設の建築
(上渚滑診療所新築工事)
(大山公営住宅建設 - 80戸建設)
(花のサロン (オホーツク流氷公園内)
(医師滞在共同住工事) → 住宅見学会開催
(紋別公園管理棟・トイレ)
(紋別市立保育所・児童館)

● 入札案内

- 工事仕様書に明記
- 当面/農業・公園施設への使用要請
- 『紋別市SGEC認証材利用促進取組方針』の策定

認証材活用 住宅助成事業

● 対象：市内のSGECの認定工務店・顧客

● 条件：認証材を5m³以上の使用

新築・増築住宅への助成

● 助成額：認証材1m³あたり5万円

内装材1m³あたり5千円

平成26実績	11 棟	9,037 千円
平成27実績	11 棟	11,349 千円
平成28実績	13 棟	11,210 千円
平成29実績	8 棟	8,235 千円
平成30実績	5 棟	4,192 千円
令和1実績	10 棟	8,825 千円
令和2実績	8 棟	7,903 千円
令和3実績	6 棟	5,708 千円

紋別市地域材 利用推進方針

平成24年4月1日施行

公共建築物等における 木材の促進に関する法律

(平成22年10月1日施行)

認証材の普及にむけて

地産地消の取組 > 認証材の利用

平成19年から紋別市沼の上に建てられている木造牛舎施設群には、カラマツの認証材が使用されています。生後3日の子牛から初産分娩22月齢の牛を預託し、1,410頭まで預託可能。

オホーツクはまなす農協哺育・育成牧場（道営草地整備事業）

事業年度 : 平成19～平成24年度

場所 : 紋別市小向

面積 : 12,356m² (16棟)

認証材使用量 : 1,173m³ (カラマツ無垢材)

施設概要

哺育舎 2棟842m²、育成舎8棟10,194m²、病畜舎1棟92m²、
飼料調整庫1棟110m²、敷料庫1棟140m²、堆肥舎2棟1,160m² 他



認証材の普及にむけて

地産地消の取組 > 認証材の利用



平成22年
建設

休日夜間急病センター医師滞在共同住宅
認証材使用量：認証材 18 m^3
内装材 126 m^2

平成23年
建設

休日夜間急病センター医師滞在共同住宅
認証材使用量：認証材 21.4 m^3
内装材 134.9 m^2

ワンウェイフレーム
認証材使用量：認証材 7.8 m^3
内装材 176.5 m^2

認証材の普及にむけて

地産地消の取組 > 認証材の利用

平成22年建設

花のサロン（オホーツク流氷公園内）

認証材使用量：構造材 22.4 m³

羽目板 29.8 m²



平成23年建設

紋別公園管理棟・トイレ

認証材使用量：構造材 14.5 m³

羽目板 102.2 m²



認証材の普及にむけて

地産地消の取組 > 認証材の利用



平成26年建設

紋別市立保育所・児童館 認証材使用量：295.05 m³

認証材の普及にむけて

地産地消の取組 > 認証材の利用

平成30年建設

西紋別こども発達支援センター・ステップ

(旧紋別市幼児療養センター)

認証材使用量： 9.3 m³



令和2年建設

海洋交流館（ガリンコ号発着場）

認証材使用量：間仕切り、マルチボックス 2.1 m³



認証材の普及にむけて

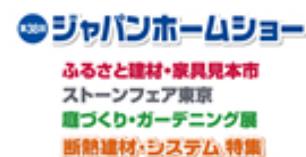
販路拡大の取組

地域でのPR

- ✓ 「認証森林」/日本最大の認証エリア
- ✓ 「森林認証材の普及」
 - ・シンポジウムの開催
 - ・森林認証材利活用推進事業（住宅建設補助）
 - ・森林認証バスツアー
 - ・公共施設等での利活用
 - ・オホーツク産森林認証材カタログの作成

ブランド化、PR、 情報発信、市場開拓

- ✓ 大消費地に向けた販路拡大
(東京都、札幌市)
 - ・北海道サミット記念環境総合展への出展（札幌ドーム）
 - ・北海道庁ロビーでの認証材展示（北海道庁）
 - ・「住友林業㈱との連携強化」
「認証材モデル・ハウス」（札幌市）
「森林認証の家」建設・販売
 - ・Japan Home and Building Showへの出展（東京都）
 - ・東京都港区との連携（ちいき百貨）
 - ・森林認証材首都圏普及モデル事業



みなとモデル二酸化炭素 固定認証制度

- ✓ 港区内の公共施設・民間建築物に、協定自治体の木材を使うことにより地球温暖化防止に貢献する
- ✓ 5000m²以上の建物に対し、延べ床面積1m²につき 0.001m²以上の木材を使うことを規定



認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 > ジャパンホームショーへの出展

催事名 『Japan Home & Building Show 2022』 (社)日本能率協会主催

期 日 令和4年10月26日～28日

場 所 東京ビックサイト（有明：東京国際展示場）

参加業者 ①佐藤木材工業(株)（紋別市） ②（協）オホーツクウッドピア（北見市）
③留辺蘋木工(株)（北見市） ④紋別木材協同組合

内 容 カラマツ・トドマツ集成材を構造材に使用したブースを設営した。

また、森林認証製品を使って壁・床材、柱等を展示し、首都圏等の公共施設等でのオホーツク産森林認証材の活用をPRした

来場登録者数 12, 235名



認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 WOODコレクションへの出展

催事名 『WOODコレクション（モクコレ）』 東京都主催

期 日 令和元年12月10日～11日

場 所 東京ビックサイト（有明：東京国際展示場）

参加業者 ①（協）オホーツクウッドピア（北見市）

②丸玉木材株（津別町） ③紋別木材協同組合

内 容 森林認証製品を展示し、首都圏等の公共施設等でのオホーツク産

森林認証材の活用をPRした

来場者数 約4,200名



認証材の普及にむけて

販路拡大 > 東京都港区との取組について



2009

平成 21 年

2010

平成 22 年

2011

平成 23 年



みなと森と水サミット2009【7自治体参加】

1月21日



みなと森と水サミット2010【15自治体参加】

2月17日



みなと森と水サミット2011【23自治体参加】

2月9日

- ・23自治体と「間伐採を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結
- ・9自治体と「間伐採を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結
- ・「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」スタート

7月8日

10月1日



2012

平成 24 年

2013

平成 25 年

2014

平成 26 年

- みなと森と水サミット2012【47自治体参加】 2月8日
 - ・15自治体と「間伐採を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結
 - ・16自治体と「間伐採を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結 10月31日
- みなと森と水サミット2013【63自治体参加】 3月18日
 - ・6自治体と「間伐採を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結
- みなと森と水サミット2014【69自治体参加】 2月6日

→ NOW
現在

認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 > 東京都港区との取組について > みなとモデル二酸化炭素固定認証制度

概要 港区内の公共施設・民間建築物に国産材の使用を促し、その使用量

に応じた二酸化炭素（CO₂）固定量を港区が認証する制度。平成23年10月1日
スタート。

特に、港区と「間伐材を始めとする国産材の活用促進に関する協定」を締
結した自治体から産出された木材（協定木材）の使用を推奨する。
5000m²以上の建物に対し、延べ床面積1m²につき0.001m³以上の木材を使う
ことを規定

目的 地球温暖化対策と森林整備の促進

1. 港区内でのCO₂固定量の増加
2. 協定自治体の森林整備の促進によるCO₂吸収量の増加
3. 伐採後の確実な再植林を規定



認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 > 東京都港区との取組について



紋別市有林から間伐材を供給

- トドマツ原木 約 110 m³
- ナラ・タモ原木 約 20 m³

使用事例

- ブランズ六本木 (みなとモデル民間物件第1号)
- 東麻生区民協働スペース
- みなとパーク芝浦
- 六本木3丁目東地区第一種市街地再開発事業
- 田町駅東口北地区保育園
- 港区営住宅シティハイツ六本木

認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 東京都港区との取組について

みなとパーク芝浦



↑
紋別産木材を使用したフロアー



みなとパーク芝浦
minato park shibaura

東京都港区芝浦一丁目16番1号

認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 > 首都圏での森林認証材普及モデル事業



目的・概要

紋別市内の木材製造業者が生産するSGEC森林認証製品の普及・拡大を図るため、首都圏の消費者がその製品を使い家を建てた場合、2泊3日、2名分の旅費を補助し、紋別市で林業体験をしてもらう。

費用については市と生産者（紋別木材協同組合）との折半で行う。

◀首都圏ハウスメーカー

住友林業(株)・古河林業(株)

認証材の普及にむけて

販路拡大の取組 > 首都圏へ木材を供給するにあつたての課題

1

北海道の針葉樹が使用されにくい状況

首都圏では、杉・ヒノキが主流であり、北海道のカラマツ・トドマツが知られていない。工務店や設計事務所などにもっと P R が必要と感じている。

2

見える部分での木材利用

下地合板だけではなく、見える部分での木材利用の推進。

3

環境に配慮され生産された木材の優先的使用

森林認証材を使用した企業等に対するメリット

認証材の普及に向けて

PRの取り組み > オホーツク産森林認証材利用要請活動

森林認証材が多く使用されているため、東京オリンピック・パラリンピックでも、オホーツク産森林認証材が利用されるよう、平成27年2月に林野庁及び東京都に対して要請活動を行ってきました。



東京2020オリンピック・パラリンピック
招致委員会HPより

認証材の普及に向けて

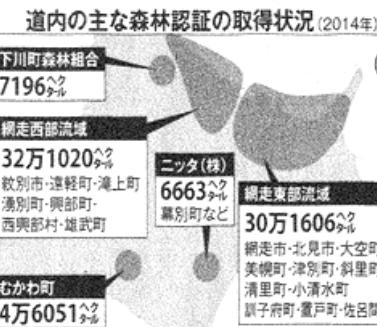
PRの取り組み > オホーツク産森林認証材利用要請活動

森林認証制度
環境
管内は約62万haで全体の95%。道内では、03年に上川管轄
されている森林や、そなへら
生産される木材に、第三者機関
がお墨付きを与える制度
全国の森林認証面積は約167万ha
あり、このうちオホーツク
1~2月現在、約167万ha
SCBCの森林認証だ。



林野庁担当者に、東京五輪での認証材活用を
要請する紋別市の宮川市長（左から3人目）
ら=2月（オホーツク総合振興局提供）

「森林認証」全国の4割 ▶ オホーツク産材



東京五輪 「PRの好機」

今年2月、オホーツク管
内の自治体や林業関係者ら
でつくる網走西部と網走東
部の商流改森林・林業活性化
協議会のメンバーが、林
野庁と東京都オリンピック
・パラリンピック準備局を
訪ね、大会施設にオホーツ
ク産の認証材を使つてもら
うよう要請した。

網走西部流域森林・林業
活性化協議会会長を務める
紋別市の宮川良一市長は
「オホーツクは認証材を大
量に供給できる」と強調。
同行したオホーツク総合振
興局林務課の担当者は、「國
や都の反応について、現体
的な施設設計に向かって、今後
も情報を寄せてほしい」と言
つていた」と、好感度たっ
た語る。

森林認証への注目が高ま
るのは、12年のロンドン五
輪以来、五輪の施設整備に

認証材を使うことが定着し
ているからだ。森林認証は
国際規格もあり、ロンドン
五輪ではほぼ全ての施設で
認証材が使われる。16年のリ
オデシャネイロ五輪でも踏
襲される見込み。林野庁は、
東京五輪を日本の認証材を
国際的にアピールする機
会にしていきたいと考え、聖火台
や競技施設、選手村などの
構造材や内装材に認証材を
用いる。森林認証を取得し
た認証林が国有林や道有
林、社有林など計約2万ha
に上り、森林認証を取得し
る。今年は新たに、北見市
が市有林約3700haにつ
いて森林認証を取得する計
画。管内一体で木材の付加
価値を高めようと、認証林
がさらに拡大する見通し
だ。

たゞ、森林認証の取得が、
木材の高付加価値化に直結
するかは不透明だ。09年に
森林認証を取得した「21世
紀循環の森づくり推進協議
会」（置戸町、釧路市町）
の会長を務める、新生記森
林組合の小林謙組合長は
「森林認証を取つただけで
は、木材価格に反映されな
い」と指摘する。

国産の木材は、価格の安
さで輸入材の流入に伴い、長
期的な下落傾向が続いている。
農林水産省の木材需給
報告書（13年12月現在）に
よると、カラマツ中丸太の
価格は1m方釐あたり1万
1400円で、ピーク時の
1980年に比べ4割程度
下落した。

東京農業大学生物産業学部
の黒瀬秀久学部長は、森林
認証材の高付加価値化の課
題を「消費者が森林認証制
度をまだ知らない」と問
題。差別化した森林認証材
にお金を払ってくれるクリ
ーンコンシーマー（環境
に配慮した商品を選ぶ消費
者）が必要だ」と指摘。森
林認証制度を首都圏の消費
者や住宅メーカーなどにア
ピールするため、東京五輪
での認証材活用が「絶好の
機会になる」と訴える。

日高市長は「森林認証を
得ることで、森林を将来に
わたって適正に維持管理す
ることを宣言する」とにな
る。認証材を大量に供給で
きるオホーツクの木を五輪
で使ってもらえば、林業の
活性化につながる」と期待
している。

「森林認証」のお墨付きを得たオホーツク産の木材を2020年東京五輪・パラリンピックの施設建設に使つてもらおうと、オホーツク管内の関係者が売り込みを強めている。森林認証は適切に管理された森林と切り出される木材に第三者機関がお墨付きを与える制度で、管内は全国の認証林の4割近くが集まる日本一の森林認証地帯。五輪を通じて森林認証制度を国内外にPRし、オホーツク産認証材の付加価値を高めたい狙いだ。

活用 国、都に要請

付加価値高め需要増期待

認証材の普及に向けて

PRの取り組み > オホーツク産森林認証材利用要請活動

PRの取り組み > オホーツク産森林認証材利用要請活動



佐藤木材工業が新国立競技場整備事業にカラマツ集成材を初出荷

全国一の認証エリアから製品供給

い難な用加は城上材、薄盛錆材れり盛れると計る

卷之三

新国立競技場にカラマツ認証材

佐藤木材工業が集成材を出荷

森林資源の不足と競争的生産性低下から取り組んできた絞り市
の佐藤木材工業株式会社(座敷教義代表取締役社長)は、新規に監理
場施設整備のため供給を始めた。カラマツ集成材をメイ
チル(木製)の外装材として、パラソル(傘)のメイ
チルなどのタシミの木版に使用され。

競技場施設事業への供給の話が決まり、集成材の加工を進め、「このほど角木トントレーラーに製品を積んで初出荷した。今後も認証原木や認証フミナの集成材と集成材製造を続け、順次出荷を進めてい

新國に「魔術技術の発達」の一記
再び「魔術技術の進歩」が「魔術」
一派の歴史へもたらす「魔術」
一派の歴史の點で最も重要な点だ。

新国立の屋根に使
カラマツ材
出荷始ま

紅別産 東京五輪へ

スタジアムの建築工事が東京都の新宿区と渋谷区にまたがる敷地で行われているが、スタンド観客席を覆う大屋根に紋別産SGCの認証木材（カラマツ集成材）が使用されることになり、29日、その木材が佐藤木材工業（佐藤教説社長、上沼清）から初出荷された。佐藤社長は「大変名譽なこと。紋別市の協力をはじめ、国有林や道有林を巻き込んだ森林認証への取り組みが実り、ここまで来られた」と喜びを語る。

カラマツ
佐藤木材工業から初出荷
緑別産の

東京オリンピックに紋別産材を供給できることには、大変喜ばれても、環境に配慮されることは、大変喜ばれることなく思っているところです。このコマントを発表している。

新国立競技場に紋別市内の業者が製材したカラマツ認証材
が使われる事が決定！



認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて

ブランド化、PR、 情報発信

◆大消費地に向けた販路拡大

- ・北海道庁ロビーでの認証材展示（北海道庁）
- ・Japan Home and Building Showへの出展（東京都）
- ・東京都港区との連携
- ・公共施設等への採用

生産コストの低減

- ◆高性能林業機械の使用により、材の搬出を低成本化し、資金を山に残す
- ◆高性能林業機械 ⇒ 2つ以上の処理能力を有する高能率の林業機械



プロセッサ

枝払い機能、玉切り機能、
集材機能 網走西部管内 12台
保有(内紋別市内 7台)

ハーベスター

伐倒機能、枝払い機能、
玉切り機、能集材機能 網走西部管内 13台
保有(内紋別市内 7台)

フェラバンチャ

伐倒作業機能、集材機能 網走西部管内 7台
保有(内紋別市内 5台)

さらなる販路拡大を目指して

◆森林認証材の海外輸出

- ◆バイオマス発電所による木材の有効利用
- ◆森林J-VERによる山への資金還元へ

認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > SGECとPEFCとの相互認証

PEFCとは

持続可能な森林管理のために策定された国際基準(政府間パネル)に則って林業が実施されていることを第三者認証する「森林管理認証」、および、紙製品や木材製品など林産物に関して、森林管理認証を受けた森林から生産された木材やリサイクル材を原材料として一定の割合以上使用していることを第三者認証するCOC認証がある。



SGECとPEFCとの相互認証

SGECは、PEFCとの相互承認によってSGECが国際認証制度として発展することを期し、2014年5月にPEFCへの加盟の申請を行い、その後、意見公募を行ったり、会議を開催したが、ついにPEFCとの相互承認の申請を2015年3月に行い、2016年6月3日に相互承認が認められた。

これにより、SGEC認証材は輸出しやすくなり、
林業界の活性化に期待がもたれている。

認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > 生産コストの低減

○低コスト作業システム現地検討会

平成21年10月1日（約280名参加）

国内初導入となるドイツWELTE社製コンビマシン等を活用した実演会と同時に高性能林業機械等の展示会も開催した。



○高性能林業機械現地検討会

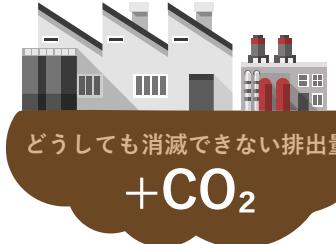
平成23年10月4日～5日（約200名参加）

国内初導入となるフィンランドPONSSE社製ハーベスター等を活用した現地検討会を開催した。



認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > カーボン・オフセットによる山への還元



1 知って
温室効果
ガス排出を知る。

2 減らして
温室効果ガス排出を
消滅する努力をする！

3 オフセット（埋め合わせ）
どうしても減らせない分の排出量を、
オフセット・クレジットでオフセット（埋め合わせ）。

平成 22 年 3 月 29 日

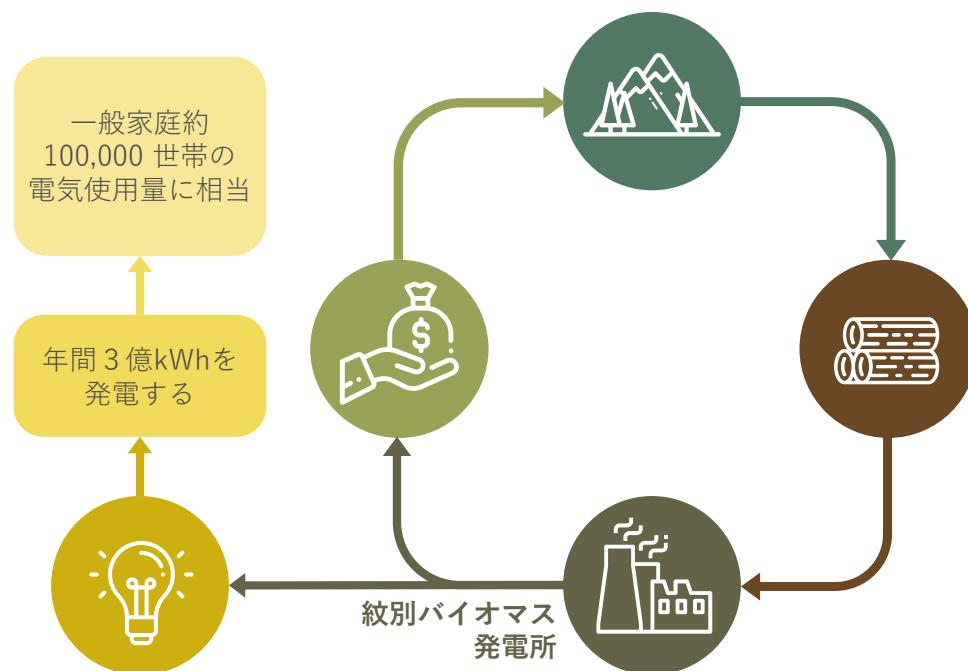
- ▶ 紋別市は「流氷の森クレジット」として、J-クレジットを取得しました！
現在までに合計4,831 t を発行しました。（内バッファ一分144 t）

平成 28 年 5 月 26-27 日

- ▶ 三重県で開催されたG7伊勢志摩サミットで排出された二酸化炭素をオフセット
すべく、紋別市のクレジットを提供しました！

認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > 紋別バイオマス発電所による山への還元



山から出材された材（チップ）を燃料として、発電所が買取り、そのお金が山の所有者に入る事で、再び山の整備にお金をかけられる。それにより、良い山が育っていく、という流れができつつあります。



紋別バイオマス発電所 HP より

認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > 林業成長産業化地域創出モデル事業



認証材による地域おこしに向けて

今後に向けて > オホーツク発 Wood+α戦略

森林認証の新しいビジネスモデルの構築

ウッドバリューチェーンの構築（川下から川上へ）

1 付加価値を高めた 製材・製品の販売促進

〔環境価値、ツーリズム〕

首都圏における認証材の環境価値の創出
首都圏企業のCSRに対するマーケティング
調査、セミナーの開催

森林認証を活用した地域材ブランディング
～“森ファン”“オホーツクファン”的発掘～
森林認証の環境価値を活かしたプロモーション（モデルルームの活用、林業体験ツアーアー）

2 林業の新たな価値創造を 担う人材の育成

〔マーケティング〕


Woodコーディネーター
“「川下と川上」、「森林と消費者」
を結ぶ地域のキーパーソン”


林業技術者の確保・育成
“環境に配慮した森林づくりを
支える確かな技術”

3 森林資源の付加価値化にむけた 原木集荷・供給システムの構築

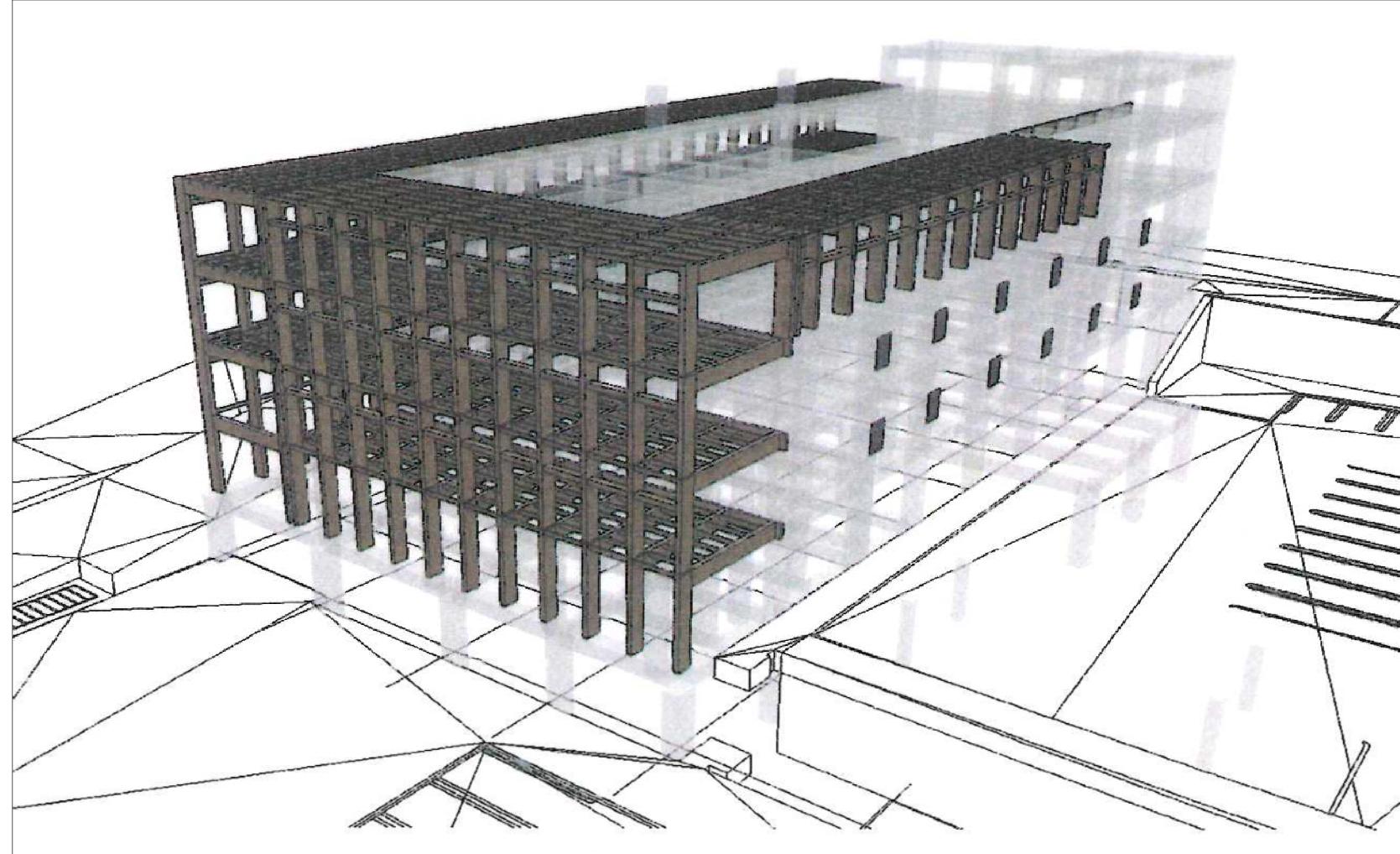
〔ICT、ものづくり〕

適切な森林施業の確保と
木材トレーサビリティシステムの構築

- ▶ 国有林・民有林のGISの統一【民国】
- ▶ 丸太検知システムによる検知作業の効率化
- ▶ 中間土場を活用した
素材生産・流通システム【民国】
- ▶ コンテナ苗の活用及び造林作業の機械化による省力化【民国】
- ▶ 高密路網作業システム

資源の大径化に合わせた生産体制、
商品開発（CLTなど）

紋別市役所 新庁舎建設 ~ 令和8年8月頃完成予定





流氷の妖精 クリオネ

ご清聴ありがとうございました